

2025年1月20日

心サルコイドーシスに合併した徐脈性または頻脈性不整脈を生じ
心臓血管内科で受診されたことのある患者さま・ご家族様へ

当院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、これまでの治療のカルテ情報から得られた研究データをまとめるものです。この案内をお読みになり、ご自身またはご家族がこの研究の対象者にあたると思われる方で、ご質問がある場合、またはこの研究に「情報を使ってほしくない」とお思いになりましたら、遠慮なく下記の担当者までご連絡ください。

ただし、すでに解析を終了している場合には、研究データから情報を削除できない場合がありますので、ご了承ください。

【対象となる方】2011年1月1日から2021年3月31日までに心サルコイドーシスに合併した徐脈性または頻脈性不整脈を生じ免疫抑制療法・不整脈治療（抗不整脈薬、デバイス植え込み、カテーテルアブレーション）を受けた患者さま
（心室頻拍アブレーション時に高密度マッピングを実施した症例に限り対象期間終了日を2023年6月30日までとします。）

【研究課題名】心サルコイドーシスに合併した頻脈性・徐脈性不整脈の特徴、ならびに免疫抑制療法・不整脈治療の介入時期に関する研究：JHRS 多施設共同研究

【研究責任者】国立循環器病研究センター 心臓血管内科 担当医師 草野研吾
電話 06-6170-1070(代表)

【研究の目的】心臓サルコイドーシスに合併した頻脈性・徐脈性不整脈に対する治療選択・有効性、長期予後を明らかにするため。また心室頻拍アブレーションの際に作成した高密度マッピングを解析することで、サルコイドーシスに特徴的な不整脈基質を探索します。

【利用する診療情報】

- 1.患者の特徴: 年齢、性別、初発症状、既往歴、内服薬、ステロイドまたは免疫抑制による治療の有無と期間、心サルコイドーシスの診断確定日とVT（心室頻拍）発症日時、他臓器のサルコイドーシスの有無
- 2.検査所見（診断時、またはアブレーション直前）:12誘導心電図
血清ACE値、血清リゾチーム値、血清sIL-2R値
- 3.画像検査:胸部CT所見、MRI、PET、心エコー所見
- 4.診断基準 心臓病変の臨床所見
- 5.デバイス植え込みの有無と種類
- 6.心室頻拍の波形（心電図添付）
- 7.マッピング情報 三次元マッピングシステムによる不整脈基質の特徴
- 8.アブレーション方法、心室頻拍起源の同定方法、焼灼部位、総エネルギー、総通電時間、

通電中の停止の有無

9.急性期結果 誘発モード Success, Modified, Failure

10.長期結果 再発の有無、デバイスアップグレードの有無

【外部機関への研究データの提供】

上記のカルテ情報を、共同研究機関に提供して、共同で研究を進めます。

・ 共同研究機関及び研究責任者

1 研究責任者：杏林大学医学部循環器内科学 教授 副島京子

2 岡山大学医学部循環器内科学 中川晃志

3 筑波大学医学部循環器内科学 野上昭彦

4 横須賀共済病院循環器内科 大久保健史

【研究期間】 研究許可日より 2027 年 3 月 31 日まで（予定）

【個人情報の取り扱い】 お名前、住所などの個人を特定する情報につきましては厳重に管理を行い、学会や学術雑誌等で公表する際には、個人が特定できないような形で使用いたしません。

【問合せ先】 国立循環器病研究センター 心臓血管内科 担当医師 草野研吾
電話 06-6170-1070(代表)